

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793000064		
法人名	ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家瑞光 ユニット1		
所在地	大阪府大阪市東淀川区瑞光2-8-15		
自己評価作成日	平成26年4月8日	評価結果市町村受理日	平成26年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&JigyosyoCd=2793000064-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にとって施設が生活の場であることを常に意識し 季節を感じていただけるような行事の企画や食事・おやつを提供を心がけています。日常のご様子の観察やコミュニケーションを通して得たことをスタッフ間で共有し安心して暮らしていただけるよう努力しています。1Fのデイサービスとの交流や2F・3Fフロア合同の行事 地域の盆踊りや中学生との避難訓練など 地域活動への参加も積極的に行い 地域の方からの認知症ケアについての相談も受けることで地域に貢献できればと思っています。地域包括支援センターや区内のグループホームとも連絡会などで情報交換を行っています。開設から3年半が経ちますが 介護スタッフの半数が3年以上勤続しており 今年度の合格者を含めると介護福祉士の資格を有する者も半数を超えます。認知症介護実践者研修了者を中心に「パーソン・センタード・ケア」の実践につとめ 馴染みのスタッフによる 資格にとまらぬケアの実践を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「一人ひとりがその人らしく楽しく元気に生活でき、笑いと笑顔あふれるグループホームをめざします」と掲げた理念の基、職員の笑顔でホーム内の明るい雰囲気作りを心がけ、利用者から多くの笑顔を引き出すよう支援に努めています。日々の散歩や買い物、喫茶店の利用の他、地域の盆踊りや中学生と合同で行われた避難訓練など、利用者と共に参加し、利用者が地域の方と関わりながら暮らせるよう支援しています。また職員は資格取得など個々にスキルアップを図り、介護計画の作成や見直し、評価は全職員が意見を出し合っで行うなど、学んだことを日々のサービスの質の向上に活かしています。職員はカンファレンスなどで情報を共有し、利用者を第一に考える支援に努めると共に家族の立場に立ち、自分の親も利用したいと思えるホーム作りを目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人ひとりがその人らしく「元気に 楽しく 明るく」生活でき笑いや笑顔のあふれるグループホームをめざすために 職員も心身の健康を保ち 職員同士・フロア間の垣根を作らず 連携を取りながら楽しく仕事をしている。スタッフ入居者の明るさが自慢。	法人の理念を踏まえ、開設時のメンバーが意見を出し合い、利用者の生活の場がその人らしさや笑顔で過ごしてもらえるホーム作りを目指した理念を掲げ、玄関に掲示し、カンファレンスなどで利用者が笑顔で過ごしているかなど再確認しています。職員は利用者の笑顔が多くみられるよう支援に努め、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の店舗での買い物・散髪・顔そりや外出時に喫茶店を利用したり 町内会に加入し子供神輿の観覧や盆踊りなどに参加 廃品回収に協力している。地域包括支援センターと連携し地域との交流の機会を作り 認知症ケアについての相談対応などで地域に貢献したい気持ちを伝えるよう努力している。	利用者と共にできるだけ地域に出かけるよう努め、買い物や散髪、喫茶店など地域の店を利用しています。ホーム前に来る祭りの子供神輿を見学したり、地域の盆踊りや中学生と合同で行われた避難訓練に利用者と一緒に参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の 地域ケア会議 事例検討会などに参加し入居希望でない方でも気軽に来ていただき 認知症ケアについての相談があれば受けることが出来ることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況・行事報告の際 入居者の様子や表情が伝わるよう スライドやビデオを見ながら説明したり ご家族に意見や希望を聞きながら行事等への参加・協力の依頼など伝えている。地域包括支援センターに 地域の取り組みについて報告や告知を依頼している。	会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員、利用している店からの参加を得て隔月に開催しています。スライドで日常の様子を見てもらい、行事や人事異動などの報告を行い意見交換をしています。家族から利用者との外出時の不安について声が上がリ、結婚式や法事に職員が付き添うなど、サービスに反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議・事例検討会などに 出来るだけ出席し 交流を計り協力関係を築くよう努めている。	市担当者には介護保険に関する分からないことや事故報告などの際に相談に乗ってもらっています。地域ケア会議には介護保険課の職員が参加する事もあり、情報交換したり協力関係が築けるよう働きかけています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に研修を実施している。フィジカルロック・スピーチロック・ドラッグロックの排除に努め 実践者研修修了者を中心に「パーソン・センタード・ケア」の考え方が実践されるよう努力している。玄関の施錠については拘束であることの認識はあるが 残念ながら安全上の理由から希望時は開錠するにとどまっている。転倒の危険がある入居者の居室には 家族の同意のもとセンサーマットを設置しているが 行動の制限はしていない。	身体拘束に関する法人の研修に参加し、ホームで全職員に伝達し周知しています。出入り口はロックしていますが、利用者の様子を観て出たい思いを汲み取りできるだけ一緒に出掛け、閉塞感の無いよう支援に努めています。意向に添えず待ってもらう際には肯定的な言葉かけを行うよう話し合い、制止に繋がる言葉かけなどがあれば互いに注意しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に研修を実施している。入居者の尊厳を大切にケアを目指している。虐待防止について個々の職員が意識を持ち お互いに声を掛け合えるような関係作りに努めている。		

グループホームたのしい家瑞光 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については介護職員基礎研修以上の資格を持っている職員は学習している。家族への周知に関しては地域包括支援センターなどから配布される冊子を渡している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に添ってわかりやすく説明し同意してもらっている。できる限りマネジャーか課長が同席し十分な説明ができるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の席上はもちろん 施設の玄関にご意見箱を設け 無記名でも意見・要望を表してもらえるように配慮し 本社でもお客様相談室を設け直接相談できる体制になっている。	家族の意見は運営推進会議の中で聞いたり、面会に来られた際には声をかけ、意見を言い易い雰囲気作りに努めています。意見を受けて美味しいお茶が提供できるよう心掛けるなど、サービスの向上に活かしています。また法人によるアンケート調査も実施しており、法人全体からも意見をもらいながら検討し、運営に活かせるよう職員間で話し合っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社では業務改善提案書を募り業務の改善に努め 事業所においては施設会議はもちろん随時必要な提案に関しては上司に報告・相談でき必要に応じて検討・改善に努めている。	職員は日常的に意見や提案を出しており、行事や環境整備などの担当制を通して積極的に意見が出されています。また管理者は定期面談や職員の様子を見ながら随時の面談も実施しており、職員の話をよく聞くようにしています。日々多くの意見が出されており、利用者の状況に合わせて掃除の時間帯を変更するなど、業務改善に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年従業員満足度調査が実施され満足度向上に努めている。社内メールで社長に直接メールで業務改善提案も可能になっている。自己申告シートによる移動願いの提出も毎年行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒者は5日間 中途採用者は3日間の入社時本社研修を受けることになっており 定期的にフォローアップ研修を本社で実施している。コーチングや介護実技の研修も毎月行われている。施設の中心となる職員は認知症介護実践者研修を順次受講し 資格取得に関してもフォローする体制が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東淀川区グループホーム連絡会に参加し3か月に1度開かれる会議に出席し 情報交換を行い研修の開催などでスキルアップにつなげている。		

グループホームたのしい家瑞光 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族からのアセスメントをもとに 本人が安心されるようコミュニケーションをとり 要望を把握し 職員間でそれぞれが得た情報を共有し支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にはどんなことが一番困っているか入所にあたって何が不安か尋ね 施設での対応方法を説明し要望を聞き支援する。入所後は出来るだけ多く面会に来てもらうようお願いし 施設での様子を伝え家族からの情報も職員間で共有し支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時などに 今どんな困りごとがあるのか 入所を考えるきっかけや 本人の日常の様子などを聞き 本人・家族にとってどうすれば一番いいのかを本人・家族が決められるよう 他のサービス利用も含め いろいろな方法を提案・助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは自分でしてもらいながら それぞれが出来ることを見つけて 日常生活の中で自分の役割として定着するよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のお誕生日会はもちろん 他の行事への参加を促し手伝いをお願いしたり 家族の行事への参加が出来るよう希望があればスタッフが同行することもある。日常の様子や家族へのお願いがある時は「瑞光だより」などで伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来やすい雰囲気づくりを心がけ 親族や友人の面会も歓迎している。馴染みの場所への外出の提案・支援も行っている。	以前近所に住んでいた方や教え子、遠方の親戚などが面会に来られており、状況に合わせて居室やリビングでゆっくり過ごしてもらっています。利用者が家族と結婚式や法事に出られるよう職員が付き添ったり、出身小学校で行われる盆踊りに一緒に出掛けたりしています。また利用者が行きたい場所があれば家族に伝え、気になる畑に行ったり宝塚歌劇の観賞など、家族の協力も得ながら馴染みの場所への外出を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは入居者同士の会話に耳を傾け関係の把握に努め 職員が潤滑油の役割としてかかわるようにしている。		

グループホームたのしい家瑞光 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別養護老人ホームに入所された方の面会に行くことはあるが 長期入院や亡くなられた方との交流はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室のベッド使用を希望者には布団で対応したり訪問美容ではなく美容院に行きたいとの希望にも対応している。	入居時は自宅を訪問し日常の様子を見せてもらい生活歴や暮らし方などを聞いたり、利用していた事業所の職員からの情報も加え、職員間で共有し把握しています。入居後はコミュニケーションをとる中で本人に直接聞いたり、利用者の言葉や様子などは日々の記録に記載し、申し送りで共有しています。把握が困難な方はカンファレンスで思いに添った支援について話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活習慣 これまでのサービス利用経過など入居時に本人・家族からアセスメントした内容をスタッフ間で共有するよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日常の状態を細かく記載し 朝夕の申し送りでその日の様子を把握できる。大きな変化や問題点については ケアカンファレンスや施設会議で話し合い対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフは毎日の介護記録に必ず目を通し 日常の状態観察の中から抽出された問題点をテーブルカンファレンスやケアカンファレンスで話し合い施設会議のケースカンファレンスで対応を決定する。必要に応じて家族・医師・地域包括支援センターにも連絡しサービス担当者会議を開催している。	本人や家族の意向を基に介護計画を立てています。3ヶ月毎に全職員の意見を集約してモニタリングや評価を行い、変化がない場合は6ヶ月毎に見直しています。家族には面会時に意向を聞いたり、暫定プランを確認してもらい意見があれば介護計画に反映しています。また医師など外部の関係者と連携が必要な場合にはサービス担当者会議を開き其々の意見を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添った一日の流れとその日の様子からの気づきに於いて 介護記録に記載し 申し送りノートを活用し 情報の徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が無理な時の受診の付き添いや 外出時や退院時の介護タクシーの手配 福祉用具の相談なども行っている。		

グループホームたのしい家瑞光 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入り回覧板からの情報で地域の催しに参加したり 地域包括支援センターの主催で 地域の中学生と地域の要介護者の避難訓練に参加するなど 積極的に地域との関係を気づきたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・皮膚科については 協力医療機関の往診で対応 整形外科・泌尿器科などの受診は 主治医の指示のもと近くの医院を受診している。歯科は希望者のみ週1回往診対応。	入居時にはホームの協力医についても説明を行い希望のかかりつけ医を決めてもらっています。かかりつけ医への受診支援は基本的には家族が行い、緊急時など家族が行けない場合は職員が付き添っています。協力医は月1度の往診の他、個々に合わせた往診があり、24時間相談できる体制が整っています。月4回歯科の往診もあり、必要な方が診てもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を職員として週1回配置している。入居者の状態を伝え必要に応じて処置を依頼している。看護師の助言を主治医との連携につなげたり内容によっては看護師から直接主治医に伝えてもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との診療情報の交換 介護・看護サマリーの交換など 入退院時にスムーズに医療・看護・介護が受けられるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の時期と考えられる入居者については 医師・看護師・家族・スタッフなどでサービス担当者会議を行い 家族・医師・訪問看護師と連携しながら本人・家族の意向に沿って その後の方針を決めている。	終末期の支援では訪問看護で対応できる範囲内であれば意向に添って支援できる方針を伝えていますが、これまでに看取りに近い支援の経験があり、その際には事前に職員に不安なことを聞いて対応したり、本社の職員や訪問看護師から心構えや関わりなどについて話してもらい、利用者や家族の意向にそって取り組みました。今後は家族の協力も得ながらケース毎に事前に学ぶ機会を持ち取り組む予定としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社研修のほか ふつう救命救急講習を実施。事故・災害発生時のマニュアルを掲示している。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の一次避難場所を周知。地域包括支援センターと区内の介護施設が連携し 地域マップを作ったり中学生と要介護者との避難訓練など地域に施設の存在を知ってもらうよう努めているが不十分である。	年に2回昼夜を想定した避難訓練を行い、1度は消防署のアドバイスを受けて実施し、通報や避難誘導、水消火器の使い方などを利用者と共にしています。また地域の中学生と合同で行われた避難訓練に利用者と共に参加し、協力関係作りに取り組んでいます。今後は運営推進会議で協力が得られるよう案内を行う予定としています。	

グループホームたのしい家瑞光 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず 自尊心を傷つけない言葉づかいをするよう職員に指導し 入浴時の羞恥心配慮 排泄の誘導時の声掛けなどプライバシーの保護に努めている。	プライバシーや接遇マナー研修を受講した職員による伝達研修を行い、全職員に周知しています。管理者は利用者に尊敬の念を持って接することの大切さを伝え、幼児言葉や指示する口調になっていないかなどを常に振り返り、意識して対応するよう伝えていきます。不適切な対応があればその場で気付けるよう管理者や職員間で互いに注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムの飲み物やおやつを選択肢を提示し自己決定できる場面を作るケアの実践に努め入浴の準備も出来るだけ本人と一緒にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活のルールはあるが 起床時間や就寝時間も 出来る範囲で本人のペースを尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には 訪問美容を実施しているが 本人の希望で美容院でのカット・パーマ 理容店での顔そりなどに同行したり 買い物に同行し自身の洋服を選んでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなど 入居者の残有能力を生かしながら 出来ることをしてもらうようにしている。季節感を味わってもらえるよう季節の野菜・果物を取り入れたり 土用の鰻 流しそうめん 鍋料理 たこ焼きパーティーなど一緒に楽しめるよう工夫している。	業者が立てた献立に沿って食材が届き、利用者のできる事を活かしながら共に食事作りを行っています。業者には利用者の好みや意見を伝え反映してもらっています。また利用者の希望を聞き、すき焼きなどを作ったり、夏には流しソーメンやうなぎなど季節感を取り入れています。職員も一緒に食卓に着き、談笑しながら同じ食事を摂り、食事が楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養士の立てた献立に従い調理し健康状態の把握のために食事の摂取量・水分量を記録し医療につなげている。それぞれの嚥下状態にあった食事形態での提供や 必要に応じた食事介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い 出来ないところ・不十分なところは介助している。家族の同意のもと週1回の訪問歯科の往診時に歯科衛生士の口腔ケアを実施している。		

グループホームたのしい家瑞光 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時・随時の誘導で排泄リズムの把握に努めスタッフ間で情報交換を行い 出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援しています。	排泄の状況を記録し、尿意や排泄のリズムを把握して失敗がないよう個々に合わせて早めの支援を心がけ、トイレで排泄ができるよう支援しています。おむつを使用し、全介助が必要な方も排泄の習慣などを知り、その方に合わせた介護の実践でトイレで排泄ができるまでに改善した方もおり、失敗を減らし自立に向かえるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時のヨーグルトに加え 週3回は乳酸菌飲料を提供し 排便マイナス2日の入居者がいる時点で繊維質のおやつやバナナ・リンゴなどの果物・ヨーグルトジュースを摂取してもらうなどで屯用の緩下剤の使用がほとんどなくなった。乳製品を取りすぎるとよくない入居者には青汁を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を聞くことは なかなか難しいが拒否がある入居者に関しては 時間にかかわらず入浴する気持ちになった時に入浴してもらうよう スタッフ間で協力している。	入浴は週に2回を目安に日中の時間帯で声をかけ、入れる方から順番に入ってもらっています。気持ち良く入れるよう一人ずつ湯を入れ替え、入浴剤を用いたり入浴を楽しめるよう工夫しています。入浴を拒む方には時間を変えたり、入ってもらい易い職員に声を掛けてもらうなど工夫しています。過去には朝や夜間入る方もおり、出来るだけ希望の時間に入れるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ馴染みの環境で 馴染みの寝具を使用し眠れるよう支援している。好みや体調に合わせた空調の調節や 安楽な体位の助言を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の管理のもと薬剤管理を行っている。薬剤情報は 閲覧できるところに保管している。往診後は 薬剤の変更について記録し申し送っている。薬剤変更時は 特に副作用の観察も含め注意し 変化があれば医師に報告し 指示をうけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの残有能力を生かした役割のの設定筋力・関節の可動域をたもつためのリハビリ体操・レクリエーションの実施・嚥下機能維持するために 毎食前に口腔体操を行ない食事を楽めるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩・買い物のほか 外出・帰宅希望時は出来る限り職員と一緒に外に出るよう努力している。本人・家族の希望があれば個別の外出にもできるだけ対応するようにしている。	日々散歩や買い物に出かけたり、花の水やりやごみ出しなど利用者と一緒に行き、自然の風や花の匂いなど、外気に触れ季節を感じてもらえるよう支援しています。家族を誘って遠足に出かけたり、個別に喫茶店などに出かけています。今後は其々の体調に合わせて行き先を選び、個別の外出支援に繋がりたいと考えています。	

グループホームたのしい家瑞光 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望で 自分でいくらかの現金を所持している入居者もいるが 基本的にはそれぞれの預り金としてフローリーダー・管理者が管理している。じぶんで現金を所持している入居者が希望すれば 買い物にスタッフが同行し 自分で支払いもされる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族に出している。契約時に 本人の希望があれば電話を掛けることを 家族に了解してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるように壁面飾りを工夫し入居者と一緒に作成している。温度・湿度の管理を行い 冬は特に加湿を心がけている。	リビングは寛げるよう利用者同士の相性を考えた座席に配慮し、ソファを置いたり、廊下の隅に置かれた椅子では仲の良い方同士と一緒に過ごされています。また花を生け、利用者と一緒に行った季節のちぎり絵などの作品を飾ったり、玄関先では利用者と一緒の花を育てています。加湿器や空気清浄器を置き、温湿度に気を配り、居心地良く過ごせる空間作りに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチの使用・居室に戻ることで 集団から離れた空間で過ごせるようにしている。食事時以外は特に座席を固定せず希望に応じている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や品物の持ち込みを 入居時に家族に依頼している。寝具も変えずに ベッドより布団になじんでいる入居者には 布団で対応している。化粧水やヘアブラシ・電気髭剃りなども 入所以前から使っている物を持って来てもらっている。	利用者は自宅で使っていたタンスや机、座布団などを持ち込んだり、これまで通り布団を敷いて休む方もおり、生活習慣の継続や自宅に近い環境を再現するなどの配慮をしています。大切な仏壇や家族の写真を置いたり、日記を付ける方、ラジオや好きな音楽を聴く方もおり、その人らしく過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに名前を明記したり トイレ・浴室もわかるようにドアにプレートを貼っている。少しの声掛けで自立した生活を送れるように工夫している。		